

財団法人 日本クリスチャンアカデミー機関誌

# はなしあい

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第525号

2011年6月号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャンアカデミー  
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャンアカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2115  
振替口座 01020-1-5184

的に学んだ金融のしくみを、ソーシャルファイナンスという視点で見つめ直す時間を持つことができました。

2日目は、「今あなたに100万円という自由に使えるお金があるとして、そのお金をどこに使うに使いますか？」というテーマで話し合いました。

環境や社会に配慮した融資をする金融機関や、環境や福祉のための活動をしている団体に融資している小規模の非営利バンクなどに対して、自分ならいくら出資するかというところについて具体的に考えました。

定期的に決まった額のお給料をもらい、借りたお金を運用するというところに縁遠い私たちにとって、お金を借りるということが経済全体を動かすことにつながっているということを実感するのは少々難しかったようです。でも、だからこそ、お金の借り方、つかい方をしっかり考えなければならぬというのを感じることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

## プログラム案内

### ◆関東活動センター

#### ■聖書講座

「新しい聖書の学び」

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2011年6月～2012年3月の第1火曜日 全10回(月1回) 18:30～20:00

①6月7日、②7月5日、③8月2日、④9月6日、⑤10月4日、⑥11月1日、⑦12月6日、⑧2012年1月10日(この回のみ第2火曜日)、⑨2月7日、⑩3月6日\*①第1～2回目は終了

会場：日本キリスト教会館 6階  
参加費：1,200円(賛助会員1,000円/学生500円)

テキスト：山口里子『新しい聖書の学び』(新教出版社)

#### ■宗教対話プログラム

「関東大震災を宗教者はどう受け止めたか」

講師：鈴木範久さん(立教大学名誉教授)

五十嵐喜和さん(日本キリスト教会茅ヶ崎東教会牧師)  
山口陽一さん(東京基督神学校校長)  
戒能信生さん(東駒形教会牧師)

日時：2011年7月9日(土) 14:00～16:30

会場：日本キリスト教会館6階  
参加費：1,000円(賛助会員900円/学生500円)

■今日的課題プログラム：3.11東日本大震災 現地教会報告会  
「その時、東北教区は…～被災者支援センターと放射能情報センターを通して～」

講師：片岡調也さん(日本基督教団東北教区宣教部長、若松栄町教会牧師)

日時：2011年7月15日(金) 18:30～20:30

会場：早稲田泰仕園 リパティホール  
参加費：1,000円(賛助会員900円/学生500円)

### ◆関西セミナーハウス活動センター

#### ■開発教育セミナー

第2回「開発教育入門セミナーパートII～実践編」

講師：開発教育研究会  
日時：2011年6月18日(土) 16:00～19日(日) 12:00  
参加費：10,500円(1泊2食込)

#### ■修学院フォーラム「いのちを考える」

第2回「71年間ハンセン病療養所に生きて」

講師：上野正子さん(国立療養所星塚敬愛園入所者)  
日時：2011年7月9日(土) 13:30～17:30  
参加費：2,000円、学生500円

#### ■開発教育セミナー

第3回「食とグローバリゼーション～日本の農業を考える～」

講師：大野和興さん(アジア農民交流センター世話人)  
日時：2011年7月23日(土) 16:00～24日(日) 12:00  
参加費：10,500円(1泊2食込)

## 賛助会費・寄付金報告

2011年4月1日～30日(順不同・敬称略)

### ◆関東活動センター

賛助会費  
手島 毅郎 5,000  
犬飼 護郎 5,000

### ◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費  
多木 秀雄 5,000  
水嶋 保 5,000  
浅川 具美 10,000  
高田 照一 10,000  
斎藤 洋子 5,000  
関屋 友彦 3,000  
春名 康範 10,000  
大島 順子 5,000

保田 茂 3,000  
奈倉 道隆 3,000  
寄付金  
久世 了、礼子 10,000

### ◆関西セミナーハウス

寄付金  
匿名 7,250  
京都音楽教育の会 12,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。

## 東西南北

堀部 亮一  
関西セミナーハウス嘱託(会計)、  
4月16日付で着任されました。

そんなことを聞くのはもうたくさんだ。  
あなたたちは皆、慰める振りをして苦しめる。  
(ヨブ記16章2節)

旧約聖書のヨブの物語は、既成宗教に対する大きな問いを投げかけています。ヨブは誰より神の前で正しく、豊かで円満な家庭を築いていました。ヨブのことを人びとは、神から愛され祝福された理想の人物と呼んでいました。しかし、サタンが神の所に来て「ヨブが正しいのは、神の祝福をいただいているからだ。彼を撃つてご覧なさい。あなたを呪うようになるでしょう」と提案します。サタンの提案を神が許したので、ヨブは一夜のうちに全財産を無くし、愛する子どもたちも死んでしまいました。さらに彼自身も重い皮膚病にかかり、見るも哀れな姿になりました。

この様子を聞いたヨブの友人の友人が見舞いにやって来ました。彼を慰め、何とかヨブを正しい道に導こうとします。彼らは、ヨブの悲劇は彼の罪に対する神からの罰と理解し、罪の悔い改めと神への帰依を迫ります。正しいこと

をしたら幸せの報いがある。悪いことをしたら裁かれるという宗教一般の正統論である因果応報を説きました。  
しかしヨブは彼らの言葉を受け入れませんでした。かたくなに自己の正当性を主張します。友人たちは我慢しきれなくなり、激しくヨブを非難するの



関西運営委員  
榎本 栄次

「天罰にあらず」  
榎本 栄次

今後どうなるのでしょうか。これは地球的な問題を投げかけています。土地、空気、水が汚染され、洗い流した水も捨てられなくて、一時的にどこかに保管し、埋めておくしかないのですから。しかし考えてみれば、このようなことは、今回起きなくても、1000年単位で考えれば、必ず起きる物を持つてしまったということでしょう。今回の災害を「天罰だ」と言う人がいます。こういう事態が起きると、私たち宗教家

まさに「未曾有」のことであり「想定外」の災害であったでしょう。地震と津波の被害もさることながら、それによって引き起こされた原発事故はそれとは質を異にする大きな被害をもたらして続いています。強制的に土地を立ち退かなければならない人たちは、原発について言うとき、科学的根拠もありません「安全神話」を鵜呑みにしていたことは、科学的な神話を信じた結果なのです。原子力に頼る日本国家と、東電や、その推進者こそ初心に返るときではないでしょうか。福島原発の事故を契機にして、世界中で、原子力の見直しという声が高まっています。原発の宣伝を買って出た人が天罰論を説いていて、これは科学ではなく、もうけ主義、今さえよければという刹那主義です。大きな事故が起きると、科学性を否定して今こそ宗教の真理を説かなければと声高に叫ぶ手法はどうかと思えます。自分に都合いい「安全神話」と「拝金主義」の間違いなのではないでしょうか。東日本大震災は天罰ではありません。冷静に時のしるしを見分けた

(世光教会牧師)



田村さんは、1989年から淀川キリスト教病院のホスピスで20年以上に亘り、がん看護専門看護師として勤めてこられ、その様子は2008年NHKテレビ「プロフェッショナル仕事の流儀」でも紹介された。田村さんは、その長い経験とその深い洞察に基づいてホスピスケアの特色を次のように紹介された。

がんの進行のどの段階においても、患者とその家族が出来る限り良い生活の質を実現するために、身体的苦痛のみ

がんの進行のどの段階においても、患者とその家族が出来る限り良い生活の質を実現するために、身体的苦痛のみ

今回のセミナーでは、社会的金融(ソーシャルファイナンス)について学びました。1日目の最初は「地域金融ゲーム」という、ろうきんが開発したシミュレーションゲームを体験しました。このゲームは、参加者は主婦(夫)や退職者、農家や地元の工務店・企業などの役割になり、銀行でお金を借りなくて

このように1日目には体験(次ページ上段へ)

●2010年度修学院フォーラム「いのちを考える」  
第3回「ホスピスケア

「死と向き合う人に寄り添う」

淀川キリスト教病院  
ホスピス主任看護課長 田村 恵子さん  
2010年12月11日(土)

ならず精神的苦痛をも和らげる全人的緩和ケアが求められるが、その中でホスピスケアは、自分の死に直面するという最も難しい人生の段階において患者を保護し、安楽を提供する特別なケアを意味する。人は身近に死を感じることになると、最も大切なことをはじめなくてはならない。思いになるし、真実なもの、価値あるものを求めるようになる。また不条理な人生に深い怒りを持ち、過ぎ去った多くのことを後悔し、深刻な虚無感に捕らわれる。ここにスピリチュアルペインの本質がある。この問いに向き合い、意味を見出し、意味を作り出し、希望を紡ぐ手伝いをするのが、スピリチュアルケアである。患者は自らの命の限

りと同じく、たくましさとしなやかさを増していく。痛みから解放されたとき、患者は身心の自由を取り戻し、本来のその人の在りように立つことができる。ホスピスの目指すところは、「あなたは、あなたのままでもいいです。あなたの人生の最後の瞬間までたいせつな人です。ですから私たちはあなたが安らかに死を迎えられるだけでなく、最後まで生きられるように全力を尽くします」とのメッセージを送ることである。33名もの多くの人が参加さ

れ、自己紹介の時、それぞれ自分の抱えている問題を述べた。それに対し、田村さんは、それらすべてを書きとめ、後のはなしあいの時間にどの人にも配慮の行き届いた応答をされた。参加者一同田村さんと一緒に思いを深めることができたと時であった。

関東活動センター

●今日の課題プログラム

3・11東日本大震災

被災教会報告会

2011年5月7日

東日本大震災の発生から約2カ月となる5月7日、「3・11東日本大震災 現地教会報告会」が日本キリスト教会館(東京都新宿区)で開催された。日基教団東京教区北支区と日本クリスチャン・アカデミー関東活動センターが共催したもので、太田春夫氏(日基教団千代田教会牧師)、宮本夏祐氏(日基教団隠退教師)らが被災地の状況を報告。約100人の参加者が熱心に耳を傾けた。

メイン報告者として登壇した太田氏は、2007年に同教会に赴任するまで、岩手県沿岸地域を中心におよそ26年間、奥羽地方で牧師を務めた。震災発生後から2度にわたって岩手県沿岸部を訪ね、被災した現地教会の支援と橋渡しした。



続けて報告した宮本氏は、日本基督教団鳴子教会牧師を務め、石巻栄光教会代務者を経て引退。宮城県松島市の自宅で地震・津波に遭遇した。自宅が浸水し特養ホームに避難。現在は東京都世田谷区の被災者住宅で暮らしている。同教団東北教区被災者支援センター(仙台市)の働きにより、情報や物資を得られたことを報告。今後の課題として、ヘド処理の問題を挙げ、教育・医療設備の設置が急務であると指摘した。

日本大震災支援委員会委員長の真壁藤氏(同教団相愛教会牧師)は、ボランティア派遣について報告。同委員会は4月8日から5月20日までボランティアを募集。5回に分けて派遣し、東北教区被災者支援センターの指示で活動している。モットーは「黙々と効率を求めて働かないこと」だとし、被災者との語らいを大切にしていることを紹介した。日本福音ルーテル千葉教会牧師の小泉嗣氏は、日本福音ルーテル教会・日本ルーテル教団・近畿福音ルーテル教会・西日本福音ルーテル教会が合同で対策室を作り、物資の運搬やボランティア派遣、ボランティア支援センターの設置などを行っていることを紹介。「東京や千葉に住んでいると、仙台・宮城・岩手は非現実。しかし現地に行くところには現実の世界としてわたしたちの思う非現実が広がっている。その日現実と現実をどのように結んでいくかがわたしたちの支援の大切なポイント」と語った。

今回の報告会では、会場に募金箱を設置し、総額150000円の募金をいただきました。募金は全額、現地で被災者支援にあたる日本基督教団奥羽教区に献金したことをご報告いたします。